

オリジナルサイダーで復興支援 復興サイダー祈願祭

令和2年7月豪雨で被災した青井阿蘇神社の復興を支援する一般社団法人ムーブメント人吉が作った「復興サイダー」の祈願祭が、9月4日に同神社で執り行われました。復興サイダーのラベルは2種類で、書道家の剣籠さん（福岡市）が人吉の活性化を願い、水神をモチーフにした龍の阿吽を描いたもの。1本330円。

9月10日から同神社や仮設商店街モゾカタウンなどで販売を開始。収益金は同神社に寄付されます。



福光採"阿"（右）と復幸祭"吽"（左）のラベルが特徴

鎮魂の灯に思いを込めて ひとよし再興プロジェクト竹灯籠点灯式

仮設商店街モゾカタウン人吉駅前、「ひとよし再興プロジェクト」竹灯籠点灯式「想」が9月4日に開催されました。県内の協力団体の支援の下、鎮魂の思いを込めて同商店街が実施されたもの。点灯式はオンラインで行われ、7〜8月間に実施された竹灯籠づくりワークショップで作られた100本以上の竹灯籠が展示されました。

ハート型などのさまざまな灯籠が並ぶ中、食事の後に記念撮影をする親子連れでにぎわいました。竹灯籠は10月3日まで点灯。



ワークショップ参加者が作った思い思いの竹灯籠が並ぶ

車いすで共生社会を考える ひぎんSDGs医療機関債発行記念品贈呈式

医療法人社団「同心会」から車いすの寄付があり、9月6日に市役所カルチャーパレス仮本庁舎で贈呈式が行われました。

同会が運営している人吉リハビリテーション病院が、介護医療院を新設するため肥後銀行の「ひぎんSDGs医療機関債」を発行。団体や学校を指定して発行額に応じた寄付が行える医療機関債で、同会が市教育委員会を指定し、市内の学校に車いすを寄付した。山田貴子理事長は「車いすを通して子どもたちに共生社会について考えてほしい」と話しました。



市内の小学校に7台の車いすが寄付された

より良いまちづくりのために 市民と市議会の意見交換会

復興まちづくりに向けた市民と市議会の意見交換会を、9月1日に市役所カルチャーパレス仮本庁舎で行いました。参加した紺屋町の商店主らでつくる「共栄会」の人たちは、「ほかの自治体でにぎわいを見せている屋台村をつくってはどうか」「温泉が出る土地があるので足湯もできる」などの意見を出しました。

市議会では、今回出た意見や今後の市民の皆さんからの意見を取り入れ、復興のまちづくりに関する特別委員会から政策提言を行っていきます。



今後のまちづくりについて意見を交わす市民と市議会

公共交通の新しい計画のために 人吉・球磨地域公共交通活性化協議会

人吉球磨地域の公共交通の指針となる「人吉・球磨地域公共交通計画」。今年度の同計画策定に向け、8月4日に市役所カルチャーパレス仮本庁舎で人吉・球磨地域公共交通活性化協議会を開催しました。

人吉球磨10市町村や交通機関関係者など約40人が出席。計画策定に向けた調査や分科会の設置が承認されました。

今後は将来的な災害リスクも踏まえながら、バス利用者聞き取り調査などを実施し、さまざまな意見を取り入れて計画策定を目指します。



オンラインで協議を行う10市町村や交通機関関係者ら

経営者の悩みに寄り添って 人吉球磨復興支援企画 事業承継相談会

事業承継に関するアドバイスや支援を行っている熊本県事業承継・引継ぎ支援センター（熊本市中央区）による事業承継相談会が、8月27日にくまりばで行われました。この相談会は国が実施する事業で、相談料は全て無料。中小企業の合併・買収支援の実務に精通した専門家が秘密厳守で相談に乗ってくれます。

後継者がいないと相談に訪れた事業者には、「後継者人材バンクから後継者を探すというのも一つの方法」などのアドバイスがありました。



中小企業診断士、行政書士が事業者へアドバイス

復興に向けた取り組みを共有 球磨川流域住民説明会

令和2年7月豪雨からの早急な地域社会の復興に向けて、球磨川流域全体で水害を軽減させる球磨川水系流域治水プロジェクトと、熊本県が策定した復旧・復興プランの住民説明会が、9月2日にスポーツパレスで開催されました。

説明会では、国、県、本市の担当者が、同プロジェクトの概要や各地域の取り組み、同プランの重点項目などを説明。参加した市民からは、市房ダムの緊急放流や支川の氾濫、遊水地を造った場合の影響などさまざまな意見や要望が出されました。



説明会は本市のほか球磨川流域の市町村で開催された

町内の被害や課題を歩いて確認 復興まちづくり地区別懇談会（温泉町）

令和2年7月豪雨で特に被害の大きかった地区の再生に向けて話し合いを行っている地区別懇談会。第6回となる温泉町の懇談会を9月15日に開催しました。

懇談会の前に行った「まち歩き」では、参加した住民と市の担当職員が、いまだ道路脇に残っている土砂やでこぼこして歩きづらい歩道など、まちの被害状況や課題を確認するとともに、避難経路を検討。その後の懇談会で球磨川に流れ込む支流の堤防強化などについても話し合いました。



湯の神社周辺を歩いて回る参加者と市の担当職員